

アメリカンビュー



アメリカ大使館公式マガジン

2017 ISSUE 01



特集

トランプ大統領就任後 初の日米首脳会談

新国務長官 レックス・ティラーソン

シリーズ「アメリカ留学の先輩」第3回

須賀正義・国連ニュースセンター広報官

アメリカ人留学生が示す日本への愛

トランプ大統領

就任後初の

Trump-
Abe
Summit

日米首脳会談

2017.2.10-12



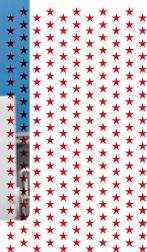
©AP Images

ト

ランプ大統領は2017年2月10日、就任後初めて安倍首相をホワイトハウスに迎え、日米首脳会談を行いました。その後両首脳は夫人と共にフロリダ州パームビーチにある大統領の別荘マール・ア・ラーゴへ向かい、週末を過ごしました。

首

脳会談後の共同記者会見で両首脳は、日米関係の重要性を強調しました。トランプ大統領はこのように述べています。「両国と両国民はとても深い絆と友情で結ばれています。トランプ政権はこの結びつきをさらに緊密にする決意です。我々は日本およびその施政下にある全ての領域の安全保障と、この非常に重要な同盟関係の強化に取り組む所存です」



安

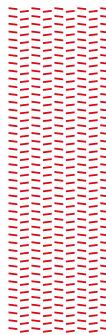
倍首相は次のように述べました。「アジア太平洋

地域の平和と繁栄の礎。それは強固な日米同盟です。その絆は揺るぎないものであり、私とトランプ大統領の手でさらなる強化を進めていく。その強い決意を私たちは共有しました」



両

首脳は日米間の貿易の改善と将来的な日本の対米投資についても議論しました。安倍首相は、日本の高速鉄道の技術がアメリカのインフラ強化に貢献できるのではないかと述べました。



“米国は、偉大なる同盟国である日本を
100%支えるということを
皆さんに理解し、十分に知ってもらいたい”

冬

のホワイトハウス
マール・ア・ラーゴへ



安

倍首相は1月20日のトランプ大統領就任以来、大統領の元を訪れた2人目の外国要人です。しかし、フロリダのマール・ア・ラゴに招待されたのは安倍首相が初めてです。



©AP Images

両

首脳は2月11日、南フロリダにあるトランプ大統領のゴルフコースを一緒に回り、プレーしました。一方、ファーストレディーたちは、20世紀初めにフロリダに移住した日本人農民が開墾した土地に建設されたモリカミ博物館・日本庭園を訪問しました。



©AP Images

安

倍首相夫妻は2月12日、帰国の途に着きました。

レックス・ティラーソンが 国務長官に就任



第69代米国務長官に承認されたレックス・ティラーソン。写真は2011年連邦議会を訪れたときのもの（© AP Images）

大手石油企業のトップとして、そしてエンジニアとして世界中を飛び回ってきたレックス・ティラーソンが、アメリカの新しい国務長官に就任した。ドナルド・トランプ政権の外交政策を担う。

ティラーソンは2017年

2月1日に第69代国務長官として承認された。初代はトマス・ジェファーソン、直近ではジョン・ケリーが務めた職責であり、これまでに5人の国務長官がノーベル平和賞を受賞している。

レックス・ウェイン・ティラーソンは、ボビー・ジョー、パティ・スー・ティラーソン夫妻の3人の子どもの第2子として、1952年3月にテキサス州ウェイクフォールズで生まれた。パンの販売をしていた父は、収入が減るにもかかわらずこの仕事を辞め、ボーイス

カウトアメリカ連盟で働くことにした。

ボーイスカウトの活動はティラーソン家の伝統だった。ボーイスカウトの行動規範はティラーソン自身の行動基準となった。彼は13歳で最高位のイーグルスカウトになり、後に総長に就任した。

ティラーソン一家はウェイクフォールズからオクラホマ州スタイルウォーターに転居し、その後テキサス州ハンツビルに移り住んだ。ティラーソンは2015年テキサス工科大学での講演で「暮らし向きは慎ましいものだった」と語っている。芝刈り、ウェーター助手などを「常に働き」、16歳のころにはオクラホマ州立大学の工学部の建物で清掃員の仕事をしていた。「工学については何の知識もなかった」とティラーソンは言う。しかし工学について学び、エンジニアになろうと目標を定



13歳でボーイスカウト最高位のイーグルスカウトになった（Boy Scouts of America）

めた。

打楽器奏者だったティラーソンは、テキサス大学オースティン校から、吹奏楽団に参加する工学部の学生を対象にした奨学金を受けた。初めは学業に苦労して、自分がこの大学にふさわしいか疑問を抱いたが、ある教授のおかげでこの困難を切り抜けることができ、好成績で卒業した。

卒業後はエクソン社に入社した。同社はこの新米土木技師をテキサス州ケイティ市に派遣した。「あらゆることをしなければならなかった。石油業界について何も知らなかった」とティラーソンは言う。だが出世は早く、28歳で管理職となり、やがては石油産出地域であるテキサスとその周辺州の中心での事業を担うようになった。



ティラーソン長官は2017年2月10日、日米首脳会談に伴い訪米した岸田外務大臣と、ワシントンで初めて会談した。

1995年、エクソン社はティラーソンを内戦からの復興途上にあるイエメンに派遣した。彼は首都サンアで2年を過ごした。次の任地はロシアで、サハリン島沖とカスピ海での複雑な石油掘削の取引に携わった。ロシアでは、ティラーソンが滞在した14カ月で6人が首相となり、6人目がウラジーミル・プーチンだった。イエメンとロシアで役立ったのは「透明性を保つこと」、すなわち彼とエクソン社の立場について相手国に何の疑問も抱かせないことだと、ティラーソン氏は言う。

1999年の合併で誕生したエクソンモービル社は、ロシアでの任務を終えたティラーソンを120のプロジェクトの責任者にした。彼は次のように言う。「飛行機で生活していたようなもので、各国政府との関係構築のため世界中を飛び回って過ごした。



2017年3月16日、外務省飯倉公館での日米外相会談後に共同記者会見するティラーソン長官と岸田大臣

会長や最高経営責任者（CEO）になりたいと思ったことは一度もない」。だがエクソンモービル社は彼を上級副社長にし、2006年にはCEOに任命した。ワシントンDCにもなじみが深く、戦略国際問題研究所の理事およびフォード劇場協会の副会長を務めた。2013年には全米技術アカデミーの会員に選出されている。

ティラーソン国務長官は、就任後初の東アジア歴訪で3月15日から17日まで東京に滞在し、安倍首相および岸田外務大臣と個別に会談した。会談では、北朝鮮の核・ミサイルの脅威への対応をはじめ、2国間・多国間のさまざまな問題について議論した。今回の東京訪問は、日米同盟のさらなる強化とアジア太平洋地域での米国の経済・安全保障面での国益増進を図るトランプ政権の姿勢を再確認するものであった。岸田外務大臣との会談後の記者会見で、ティラーソン長官は「米国は、長年にわたる日本国民の皆さんとのパートナーシップを今後も継続していく」と述べた。



就任後初の来日で、ティラーソン長官は安倍首相とも会談した



アメリカ留学の先輩

第3回

高見澤聖斗

在日米国大使館

報道室インターン



2014年サモアで行われた小島嶼開発途上国（SIDS）国際会議をカバーしたときの様子

国連ニュースセンター広報官

須賀正義さん

「国連職員」—この職業に憧れたことがある人は多いのではないだろうか。私もその一人である。しかし、ハードルが高いと感じて挑戦せずに終わる人も多いと思う。夢を実現するためには、時に挫折を味わい壁を越えなければならぬが、そのような経験をしながらも、努力を続けて47歳で国連デビューを果たした人がいる。国連広報局ニュース・メディア部会議報道課のプレスオフィサーに就任し、現在国連ニュースセンター

で広報官（ニュースライター）として活躍している須賀正義さんだ。彼の経験は、留学や将来に不安を抱える若い世代に勇気を与えられるのではないかと考え、須賀さんから若い世代に向けたメッセージをもらうべく、お話をうかがった。

アメリカ留学をきっかけに

須賀さんは、大学時代には高校の英語教師を目指していた。「英語教師になるなら英会話が

できないといけない」と思い、アメリカ留学を志す。奨学金や仕送り、アルバイトなどで貯金し、留学費用が貯まつた大学3年の時に1年間休学して約10ヵ月間の語学留学をした。ウィスコンシン州の語学学校に通い、授業だけでなく、寮でも積極的に各国の友達をつくって英語力を磨いたそうだ。その中で友達から日本のことを見て聞かれたが、あまり答えられず、自分の知識のなさに衝撃を受けた。そこで「もっと日本について勉強しなければ」と須賀さんは感じた。

この約10ヵ月間は非常に楽しいものだったが、英語力がついてきた頃に帰国しなければならず、「もう一度アメリカに来たい」と思ったそうだ。

須賀さんは日本に帰るとすぐに就職活動を始

る。そのような中でいくつか内定をもらい、最終的に英字紙記者の道へと進んだ。

挫折を機に大学院へ

30歳代半ばになった頃、大学時代の「もう一度アメリカへ行きたい」という思いが再び強くなり、アメリカへの転職を決意。ちょうど同時期にジョージア州アトランタにあるCNN本社で日本語ニュースサイトのプロジェクトが立ち上がり、日本語と英語ができる編集者の募集がかかっていた。そこに須賀さんは応募して採用され、大学時代の思いを実現させた。

しかしその後、思わぬ壁に当たってしまう。当時インターネットメディアは急成長していたが、彼

が渡米して1年過ぎた頃にITバブルがはじけて不況に陥り、CNNのプロジェクトが暗礁に乗り上げてしまった。彼は失業した。「1年で日本に帰りたくない」と思った須賀さんは、何とか残れる方法を探した。そして大学院に進むことを決意。同じアトランタにあるジョージア州立大学の大学院へ進み、経営学を専攻した。ジャーナリズムの経験が10年以上あったため、同じことを学ぶより他の分野を学んだ方がいいのではないかと考え経営

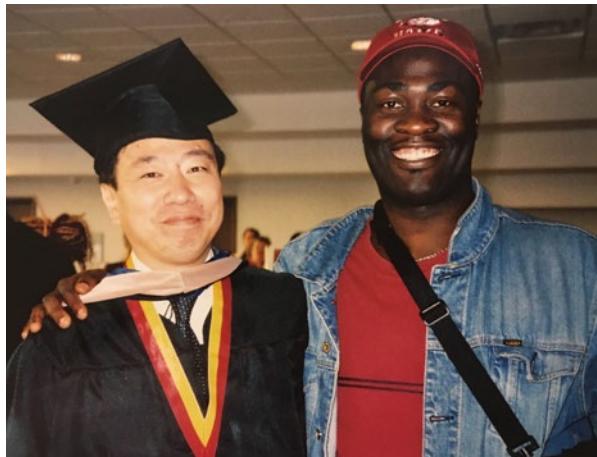
学を選んだそうだ。その中でもインターネットビジネスに絞った「インフォメーション・システム・マネジメント」を学んだ。

大学院の授業は質が高く、毎日楽しくて「一度もサボったことがない」と当時を思い出すかのように笑顔で話してくれた。授業がない日は、大学の図書館に通いつめて勉強していたそうだ。また、授業では先生から意見を求められたら真っ



ウィスコンシン州立大学スティーブンスポイント校で友人と写真を撮る須賀さん（左）

めた。それまで彼は「自分は教師になるしかない」と思っていたが、留学したことでの視野が広がり、「もっと他の選択肢・可能性があるのではないか」と考えるようになった。この留学が人生の転機の一つとなったのだ。ただ、教育実習と並行してさまざまな道を模索するあまり、焦点の定まらない就職活動になってしまい、「自分が何をやっていいのかわからない」という悩みもあったようであ



ジョージア州立大学ビジネススクールの卒業式での友人との一枚

先に手を挙げて意見を言うことを心掛けていたと言う。アメリカの大学では、どれだけ授業に貢献したかも成績を決める上で重要な要素であるが、この積極性が実を結び、学期の最後にはクラスメートから授業に最も貢献した学生に選ばれ、成績も良かったそうだ。

他にもチームプロジェクトで積極的にリーダー役を務めた。あるアプリ開発プロジェクトでは写真共有アプリを開発したそうだが、「今から考えると『実際にビジネスとして立ち上げていれば、Instagramよりも先に、はやるアプリを作れたのではないか。アイデアを実現する人とそうでない人の差を感じ、アイデアだけでとどまつていけない』ということを学んだ」と笑いながら話してくれた。

苦労したことは、やはり学費の捻出だったようだ。企業や財團からのサポートがなかったため、貯金だけでは苦しい状況だった。何とかするために、学費が免除されて給料も支給される教授の助手であるリサーチ・アシスタントになることを目指し努力した結果、2学期からアシスタントにな

ることができた。

今やるべきことをコツコツと

卒業して再びマスコミ業界で約6年半働いた後、国連就職ガイダンスに参加したことをきっかけに国連の広報ポストに応募した。そして内部候補者優先という厳しい状況でありながら見事採用され、2012年3月に47歳で国連デビューを果たした。採用された理由について須賀さんは、「失業経験が非常に役立ち、人生の宝となった」と言う。失業したことにより、自分のスキルや目的などをじっくり考える時間があり、就職活動のためのスキルも磨けたことが大きかったようだ。

冒頭で述べたように、須賀さんもこれまで何度も国連職員を目指そうと思いながらも、ハードルが高いと感じて真剣に挑戦してこなかったそう



だ。しかし、現在はこうして夢を実現させている。時間がかかっても夢を実現させるために重要なことは何か聞いてみると、「十年一剣を磨く」ということわざを紹介してくれた。これは「力を發揮するために長い間修練を積むこと」を意味するが、須賀さんはこれを用いて「今やるべきことを毎日コツコツと、10年20年続けることで大成する」と話してくれた。

危機の中にチャンスがある

挫折を経験したり将来に不安を抱える若者も多いだろう。そのような人々へ須賀さんが一言アドバイスしてくれた。

「『危機』の『機』は『機会』の『機』である。だから実は『危機の中にチャンスが潜んでいる』。そして挫折してしまった際には、自分の人生の模範となる人を持つことが大事」

これは失業を経験しても諦めず、そこからコツコツと努力して現在の仕事までたどり着いた須賀さんだからこそ言える、とても説得力があり勇気



ニューヨーク国連事務局内のオフィスでの一枚

づけられる言葉だと思う。「失敗は成功の素」とよく言われるが、まさにその通りだと彼の経験から教えられる。

一番の壁は自分の心の中にある

最後に二度のアメリカ留学を経験している須賀さんから、留学しようと考えている学生や、不安や迷いであと一步踏み出せない学生に向けたメッセージをいただいた。

「留学をためらう理由はいろいろあると思います。しかし、世界中の学生はあらゆる方法で問題を解決していきます。例えば、知り合いの家に居候したり、教材を先輩からもらったり、奨学金やアシスタントシップを獲得したり、あらゆる方法で費用のハードルを下げてきます。だから日本人の学生ももっと貪欲にそういう方法を考えてみてはいかがでしょうか。しかし、一番の壁は自分の心の中にあります。『やっぱり自分には無理なんじゃないか』と自分で限界をつくってしまう。私もそうでした。だからまずは、自分には無理という心の壁を破っていく。また『希望』というものは『他人から与えられるものではなく、自分から作り出していくもの』だと思います。ドラマの主人公は皆さんなので、新たな挑戦を始めてみてはいかがでしょうか。挑戦から結果が生まれると思います」



ジョージア州立大学の卒業式の一環として行われた留学生の集いでスピーチする須賀さん

アメリカ人留学生が YouTube で示す 日本への愛

ジョシュア・トリニダード
在日米国大使館
報道室インターン

ロレッタ・スコットさんは、文部科学省の奨学金制度を利用して日本の大学の修士課程で経営学を学ぶアメリカ人留学生です。何年にもわたり日本語を学んできたロレッタさんは「KemushiChan」という人気のYouTubeチャンネルを持ち、日本でのワクワクする体験や日本語学習法について情報発信しています。彼女のビデオの主な狙いは、日本にいる外

国人に役に立つ情報や日本語を学ぶヒントの提供ですが、日本人の学生が英語を学ぶ際にも大いに役立ちます。視覚的に興味をそそる内容で、日本語も使われているからです。スコットさんの経験から、どの国の若者も外国語を流ちょうに話せるようになり、留



学や海外で生活する夢を実現できることがわかります。今回アメリカン・ビューは、語学学習と留学についてスコットさんにお話を伺いました。

アメリカン・ビュー (AV) :長年にわたり日本と米国を何度も行き来していますが、最終的に日本で生活する決心をした要因を教えてください。

ロレッタ・スコット:日本語をかなり勉強し日本に旅行もしましたが、本当の意味でこの国で暮らしたことはありませんでした。実際に暮らしてみなければわからないこともあります。それで、そろそろ日本で暮らしてみる時期だと思ったのです。文部科学省から奨学金を受けることができ、経済的にも来日が可能になりました。日本の大 学の経営学修士課程に合格したので、日本で少なくとも3年間暮らすことになります。その後はチャンスがあれば日本でもアメリカでもどこへでも行くつもりです。

AV:これまでのところ日本での生活はいかがですか？

スコット:最初は自分自身にがっかりし、挫折感を味わいました。でもそれをなんとかやり過ごして積極的に人に会い始めたとき、やっていけると思いました。今はとても満足しています。私は15年間日本語を勉強し、日本の人たちと長く交流してきました。以前日本に滞在したこともあります。それにもかかわらず、学ばなければならぬことがまだたくさんあります。

AV:東京での目標をいくつか挙げてください。

スコット:そうですね、いろいろとやってみたいですね。もちろん、まずは卒業したいです。着物も着てみたい。何より東京で多くの仲間をつくりたい

です。ニューヨークにいたときは人脈があったので常に仕事がありましたし、また自分がしたいことに関する仕事をいつでも見つけられました。日本でも同じような状況にしたいのです。

AV: 長いこと日本語を勉強していますが、日本語に興味を持ったきっかけは何でしたか？

スコット：日本語を勉強するほとんどのアメリカ人学生同様、ポップカルチャーの影響です。私が高校1年生だった2002年、ちょうどポケモンなどがはやりだしたころに、私の通う高校が日本語の授業を始めました。高校を卒業するまで日本語を学び、その後大学で2年、計6年間学校で日本語を勉強しました。それから大学で日本語授業の助手の仕事に就きました。大学卒業後、米国国務省の重要言語奨学金（Critical Language Scholarship）プログラムに参加し、それ以降は基本的に独学です。今は日本で暮らしていますから、学んだことを徐々に取り戻しています。全て合わせると約15年間日本語を勉強しています。

AV: これだけ長い間諦めないで日本語を勉強し続ける秘訣は何ですか？

スコット：私は早い段階で日本に接し、日本語を実際の生活で使う機会に恵まれました。高校時代、日本から交換留学生が来て学校のマーチングバンドに入りました。日本語の授業を受けていた私は、マーチングバンドのメンバーでもあったので、彼女をお世話することになりました。それで学んでいた言語を実際の人間相手に使わなければならなくなってしまったのです。その3年後に日本を初めて訪れ、それからほぼ2年おきに日本に来る機会がありました。というわけで常に日本語を勉強し続ける動機があったのです。

AV: スコットさんのYouTubeチャンネルについて教えてください。

スコット：大学2年のとき始めました。大学の日本語の授業を全て修了した直後です。

YouTubeの他の日本語関連ビデオを見て、何かが足りないと感じました。それでコントと「メタ学習」（学習の仕方を学ぶこと）を組み合わせたビデオを作りたいと思ったのです。つまり、自分が目指す言語レベルに到達する方法を自分自身で学ぶということです。それで、日本語の話し方、書き方、聞き方について私がコントを演じました。

現在も続けていますが、重視するポイントを少し変え始めています。今取り組んでいるのは、外国に行くのはそれほど難しくないと皆さんに思ってもらうことです。何かをする方法を自分自身で学ぶという考え方と同じですが、言語ではなく、基本的なこと、例えば賃貸契約の結び方や住み慣れた国を離れてこれまでとは違う生活をする方法など、社会人向けの内容を意識しています。

AV: 留学を検討しているけれど、決めかねている人に何かアドバイスはありますか？

スコット：あまり時間のかからないことからやってみてはどうでしょう。自分の人生を大きく転換することに不安があるのなら、旅行だけにしてみるとか。私もそうしました。毎年2～3ヶ月だけ日本に来ていましたが、ある時点で自分が日本から離れていられないことに気づきました。外国に実際住んでみるのは、その国を外から見ているのと全く違います。それを経験する唯一確かな方法は、少しの間だけでも試してみることです。



ロレッタ・スコットさんの活動は
以下のサイトでご覧になります。

<https://www.facebook.com/Kemushichan>

<https://twitter.com/KemushiJP>

<https://www.youtube.com/c/kemushichan>

ミシシッピ・ リバー・カントリー USAを旅してみよう！

「アメリカ観光」と一口に言いますが、皆さんもご存知のとおりアメリカは広大な国です。さまざまな特色を持った50州が集まり「合衆国」として国が成り立っているので、一つ一つの州を訪れるたまるとまるで違う国を旅しているような印象を受けます。ですから、ニューヨークやカリフォルニアだけを見てアメリカ旅行を語るのはちょっと待ってください。アメリカの文化を担ってきたミシシッピ川流域の各州も、アメリカ旅行で押さえておきたいデスティネーションなのです。



大河ミシシッピ川の源流となるミネソタ州北部にあるアイタスカ湖
(写真提供: ミシシッピ・リバー・カントリー USA)

ミシシッピ川はミネソタ州北部のアイタスカ湖を源流とし、最終的にはルイジアナ州でメキシコ湾に注ぐ大河で、アメリカの主要な都市をつなぐ各地の文化の架け橋となっています。このミシシッピ川流域にある10州がミシシッピ・リバー・カントリー USA(以下 MRC)です。MRC はアメリカの中心に位置しており、この10州を体験せずにアメリカ合衆国を理解することはできない

でしょう。MRC の代表的な人気観光都市としては、ニューオーリンズ、バトブルージュ(以上ルイジアナ州)、ナッシュビル(ミシシッピ州)、リトルロック(アーカンソー州)、メンフィス(テネシー州)、セントルイス(ミズーリ州)、レキシントン(ケンタッキー州)、シカゴ(イリノイ州)、ドゥビューウ(アイオワ州)、ミルウォーキー(ウィスコンシン州)、ミネアポリス(ミネソタ州)が挙げられます。

MRC を旅行するにはグレート・リバー・ロードと呼ばれる、全長約4800キロ(3000マイル)のミシシッピ川沿いのドライブルートを利用できます。グレート・リバー・ロードはアメリカを縦断する有数の景勝道路で、道中では「ハート・オブ・アメリカ」と呼ばれるアメリカ神髄の土地で本格的なアメリカ料理を味わい、この地域で生まれ育まれた文化・歴史などを体験していただくことができます。

ジャズ、ロックンロール、ブルースなどの音楽はミシシッピ川流域で生まれました。ミシシッピ川



グレート・リバー・ロードはミシシッピ川に沿って走る国定景勝道路。紅葉時には多くの車でにぎわいます
(写真提供: ミシシッピ・リバー・カントリー USA)

流域の南部には南北戦争跡地や歴史的なプランテーション群が点在していますし、北部の田園地帯には古代のインディアン古墳やマウンズ（墳丘）が今も残ります。グルメとしてはルイジアナ州のケージャン料理やクレオール料理から、ミズーリ州カンザスシティのバーべキュー、シカゴスタイル・ホットドッグなどを楽しむことができます。その他、ミネソタ州ミネアポリス郊外にある世界最大といわれるショッピング＆エンターテインメント施設「モール・オブ・アメリカ」、ルイジアナ州ニューオーリンズにある米国内で最も伝統的な



セレブレーションベル号はミシシッピ川を遊覧する蒸気船。
ゆったりのんびりと大河の流れに身をさせてみてはいかがでしょうか
(写真提供: ミシシッピ・リバー・カントリー USA)

歴史地区フレンチクォーター、そしてミズーリ州セントルイスにある、ジェファソン・ナショナル・エクスパンション・メモリアルのゲートウェイ・アーチとその1階にある西部開拓時代博物館など、見所は盛りだくさんです。さらにバーボンやウィスキーの蒸留所、ビール工場、ワイナリーを探訪することもできます。

地域の産業としてはハーレーダビッドソンのオートバイ、ジョンディアの農耕機、メジャーリーガーが使用するバットのブランド、ルイビル・スラッガーがあり、それぞれの会社が運営する博物館が観光スポットとなっています。アメリカの有名な映画「フィールド・オブ・ドリームス」のロケ地



名画「フィールド・オブ・ドリームス」のロケ地はアイオワ州
ダイアースビルにあります(写真提供: ミシシッピ・リバー・カントリー USA)

を見学したり（アイオワ州）、オザーク山脈の絶景を堪能したり（ミズーリ州）、紅葉のシーズンにきれいに色づいた森林を見ながら国定景勝道路をドライブするのも旅の最高の思い出となります。

いかがですか？ 皆さんが行ってみたい町、知っている都市がありましたか？ この全てがMRCにあるのです。アメリカの真の精神が今もここにあります。さあ、こうしたMRCの魅力を発見する旅に出かけてみましょう。



ミズーリ州セントルイスにあるゲートウェイアーチは西部開拓史のランドマーク(写真提供: ミシシッピ・リバー・カントリー USA)

MRCのミシシッピ川流域各州の観光促進団体が、日本でも盛んに観光PRをしているのをご存知でしょうか？ 公式日本語ホームページ(<http://mrcusa.jp>)やSNS(<https://www.facebook.com/mrcusajapan/?ref=hl>)で情報発信をして、一人でも多くの日本の皆さんに足を運んでいただけるように活動しています。



アメリカ人のように 話してみない？

シリーズ第8弾

Animal Idioms

友達がほめてもらいたがっている—そう感じたことはないかな？ こういうときアメリカ英語では“fishing for compliments”と言うんだ。直訳すると「ほめ言葉を釣ろうとする」。自分のことをわざとけなして、相手からほめ言葉を引き出そうとするっていう意味なんだよ。アメリカには動物を使う表現がいくつもあるんだ。いくつか例を紹介するから覚えて使ってみてね！



The early bird catches the worm

早起き鳥は虫を捕まる／

早起きは三文の徳

Today I woke up earlier than usual,
so I had enough time to read a book
and make a delicious breakfast.
It's true that the early bird catches the worm.

Example

今日はいつもより早起きしたんだ。本を読む時間も、
おいしい朝食を作る時間も十分に取れたから、早起きは三文の徳って本当だね。

Explanation

日本のことわざ「早起きは三文の徳」と同じだね。wormは鳥の餌になる虫やミミズのことだよ。early birdは転じて、早起きの人、早く行動する人という意味でも用いられるよ！ 早起きや早く行動する人は時間と気持ちに余裕ができて、成功をつかみやすいからかもしれないね



To get (have) butterflies (in one's stomach)

緊張して落ち着かないこと、ドキドキすること

Example

It's normal to have butterflies in your stomach before the final game.

決勝戦の前は緊張して当たり前だよ。

Explanation

直訳するとお腹の中にチョウがいることになるね！ そんなこと、考えただけでソワソワして落ち着かないよね。みんなの前で発表するときや好きな人の前でドキドキするときにも使えるよ！ マイケル・ジャクソンのButterfliesにもこんな歌詞があるよ。“You give me butterflies.” 「君は僕をドキドキさせるんだ」だって。



Elephant in the room

大きな問題や良くない状況を見て見ぬふりすること

Example

That messy desk is the elephant in the room.
Nobody wants to deal with cleaning it up.

片付けなければいけない机があるけれど、
みんな見て見ぬふりをしている。

Explanation

直訳すると象が部屋にいることだよね。象が部屋にいたら気づかないわけないよね。ここでは、明らかに気づいていながら知らんふりすることを示すよ！



To get (one's) ducks in a row

準備万端整える

Example

He's getting all his ducks in a row before he flies off to New York.

彼はニューヨーク行きのフライトの前に
準備万端整えようとしている。



Explanation

アヒルが一列に整列しているなんて、想像するだけでかわいいイディオムだね♪ 準備するという意味の“get organized/prepared for”と似たニュアンスになるよ！

通常より小さなピンを使うボーリングの一種「ダックピン」が語源と言われていて、
ピンをきれいに並べて準備しておくことから来ているんだって。



月面探査レース 賞金を手にするのはどのチーム？

500メートル走行といえば簡単そうに聞こえるかもしれない。しかし、それが月面だとしたらどうだろう。それほど簡単ではないかもしれない。

「ルナーハイプライズ」(Lunar Xprize)は、グループが主催する月面探査レースだ。決勝に出場する5つのチームには、(1)探査機を月に着陸させる、(2)探査機を着陸地点から500メートル移動させる、(3)高解像度の月の静止画像と動画を地球に送信するという3つの課題が与えられている。

この3つの目標を全て最初に達成したチームは、優勝賞金2000万ドルを手にすることができます。たとえ月に一番乗りしなくとも、月面を5キロ以上移動したり、過去のアポロ・ミッションの着陸地点から月のビデオ映像を配信できれば、数百万ドルの賞金を獲得できる。

「5チームはそれぞれ限界に挑戦してきた」。ルナーハイプライズのシニアディレクター、チャンダ・ゴンザレス・マウラーはこう語る。

決勝出場チームを以下に紹介する。

●ムーン・エクスプレス

ムーン・エクスプレスはシリコンバレーのスタートアップ企業。月は「8番目の大陸」で、宇宙探査の次の重要なステップと捉えている。また月の資源について解明し、開発・商業利用したいと考えている。同社の月面探査機はロケット噴射で月面を「跳ねる」。

●ハクト

東京を本拠地とするチーム・ハクトは、小型ローバー「テトリス」と「ムーンレイカー」を月に送る。2台のローバーは、長期間火山活動が休止状態にある溶岩洞の「天窓」の役割を果していると考えられる穴の探査を目指す。この溶岩洞は、月で火山活動が活発だった時期の遺物と考えられている。

●スペースIL

スペースILは月面に着陸し、その後予備燃料を利用して飛び立ち、500メートル先に再度着陸する宇宙船「ホッパー」を開発した。イスラエルに拠点を置くこのチームは、新世代の人々が科学と宇宙に関心を持つよう促したいと考えている。

●チーム・インダス

インドで技術革新に取り組む人々で構成されるチーム・インダスは「途方もない夢を持った普通の人が集まると素晴らしいことを実現できる」とチームの特徴を説明する。ECA(ヒンディー語で「1つの小さな願い」を意味する語句の頭文字をとったもの)と名づけられたこのチームのローバーはアルミ製で、2008年に公開されたピクサー・アニメーション・スタジオ製作の映画「ウォーリー」に登場するロボットに似ている。

●シナジー・ムーン

メンバーが十数カ国から参加する国際チーム。Xプライズにエントリーしたが決勝進出を果たせなかった28チームのメンバーも含まれる。このチームのローバーは、カリフォルニア州に本社があるアメリカの航空宇宙メーカー、インターポービタル・システムズのネプチューン8ロケットに搭載されて月に向かう。

2007年以来、30チーム以上がルナーハイプライズを目指して競い合ってきた。その素晴らしい活動を YouTube (https://www.youtube.com/playlist?list=PLFr_CR2naq_GKR5IV_I4ECL9iexYlo2-h)で見ることができる。優勝賞金を獲得するには決勝戦参加チームは2017年中に打ち上げを成功させなければならない。



在日米国大使館 広報・文化交流部 アメリカンビュー編集部よりお知らせ

インターン募集

広報・文化交流部では、写真撮影や記事の執筆など広報活動のお手伝いをしてくれる学生インターンを募集します。応募締め切りなど詳細についてはこちらをご覧ください。

<http://amview.japan.usembassy.gov/about-amview>

ストーリー募集

アメリカや日米関係にまつわる皆さんのストーリーを記事にしませんか。アメリカ留学旅行中の新たな発見、日米間の架け橋として活躍している人の紹介など、皆さんのがシェアしたいお話をメールで編集部（TokyoAmView@state.gov）までお寄せください。英語でも日本語でも受け付けています。



メリカン・ビューは在日米国大使館 広報・文化交流部が発行するマガジンです。アメリカの文化や社会を日本の皆さんに紹介し、日米関係にまつわる問題や出来事を考察しています。本誌の送付を希望される学校や団体は、使用目的を明記のうえ下記のメールアドレスまでご連絡ください。ご意見・ご要望もお待ちしています。下記のアドレスにお送りいただくか、ウェブ版のコメント欄から送信してください。

連絡先

在日米国大使館 広報・文化交流部報道室 アメリカン・ビュー編集部

〒107-8420 東京都港区赤坂 1-10-5

E-mail TokyoAmView@state.gov

WEB <http://amview.japan.usembassy.gov>

*本誌記載の記事に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解を表すものではありません。



編集・発行／在日米国大使館 広報・文化交流部 T-107-8420 東京都港区赤坂 1-10-5
American View: amview.japan.usembassy.gov 在日米国大使館: Jp.usembassy.gov/ja American Center Japan やべへー・留学情報: AmericanCenterJapan.com
わざわざハイレベルな記事の全文、すべてないかぶりオや写真、その他の情報もい騙じただけます。本誌記載の記事は述べておる意見は必ずしも米国政府の見解を表すものではありません。



©AP Images

日米友好のシンボル、 ハナミズキの 開花前線レポート

2012年から3年間、国務省と日米交流財団が共同で実施してきた「友好の木一二シアチブ」を通じ、アメリカから日本各地に3000本以上のハナミズキが贈られました。そのハナミズキが花を咲かせる季節がやってきます。アメリカ大使館は、沖縄県に始まり、東北の岩手県まで北上していくハナミズキの開花前線を、写真と共にソーシャルメディアで紹介していきます。大使館のツイッターとフェイスブック・カウント (@usembassytokyo) をぜひフォローしてください。